

Jean-Claude

ジャン＝クロード・ルソー監督来日!

ジャン＝クロード・ルソー
レトロスペクティブ

Rousseau



Rétrospective

2026.11.13.fri. アテネ・フランセ文化センター (東京・御茶ノ水)

上映作品 (8 作品)

『閉ざされた谷』 1995 La Vallée close 『セリ・ノワール』 2009 Série Noire

『晩秋』 2016 Arrière-saison 『かくも遠く、かくも近く』 2016 Si loin, si proche

『愛の歌』 2016 Chansons d'amour 『イン・メモリアム』 2019 In Memoriam

『浮世』 2021 Un monde flottant 『カフカの墓』 2022 Le Tombeau de Kafka

2026.11.14.sat. キノコヤ (東京・聖蹟桜が丘)

上映作品 (8 作品)

『対岸の眺め』 2005 Une vue sur l'autre rive 『ある日』 2011 Un jour

『霧のヴェネチア』 2011 Senza Mostra 『テラスの眺め』 2014 Terrasse avec vue

『別の日』 2014 Un autre jour 『ウェルカム』 2022 Welcome

『私の恋人たちはどこ?』 2023 Où sont tous mes amants?

特別上映 『correspondence1』 2026 キム・ジェホン監督

主催 | アテネ・フランセ文化センター Athénée Français Culture Center

キノコヤ Kinokoya

共催 | 映画美学校 The Film School of Tokyo

協力 | tapetum works / 高木繁光 Shigemitsu Takagi

à Tokyo 2026

ジャン＝クロード・ルソー Jean-Claude Rousseau

1948 年パリ生まれ。70 年代、ニューヨークでアンディ・ウォーホルらアメリカのアンダーグラウンド映画の洗礼を受けると同時に、小津映画を発見する。フランスへ帰国後、ブレッソン作品をフェルメール絵画との関係において論じたテキストを著し、処女作『窓際で手紙を読む若い女』（1983）を制作。初長編作は『ローマの遺跡』（1989）。ルソーをヨーロッパで最も偉大な映画作家の一人と称賛するストロブとユイレが、シネマテーク・フランセーズでの自作の上映に際し、ルソーの『閉ざされた谷』を併映。彼らの支援によってオリジナルの 8 ミリから 16 ミリに変換される。2001 年ヴェネツィア国際映画祭で全作品回顧上映。2007 年『derives』ジャン＝クロード・ルソー特集号刊行。2025 年 NY のアンソロジー・フィルム・アーカイブスにて特集上映が組まれ、2026 年 7 月には韓国の国立現代美術館にて大規模な特集上映が行われている。



アテネ・フランセ文化センター

タイムテーブル

プログラム 1

13:00 - 15:20 『閉ざされた谷』

プログラム 2

15:50 - 17:10 『晩秋』『浮世』

プログラム 3

17:40 - 19:21 『かくも遠く、かくも近く』『セリ・ノワール』『カフカの墓』『イン・メモリアム』『愛の歌』

19:30 - 21:00 特別講義 講師：ジャン＝クロード・ルソー監督

*フランス語→日本語逐次通訳

入場料

1 プログラム券|1,200 円, シニア・学生・障がい者 1,000 円, 会員 800 円

3 プログラム券|2,400 円

*当日券のみ/先着順

*各プログラム入替制

*チケットは当日 12:30 から販売

*特別講義は上映会のチケットの半券提示で入場無料

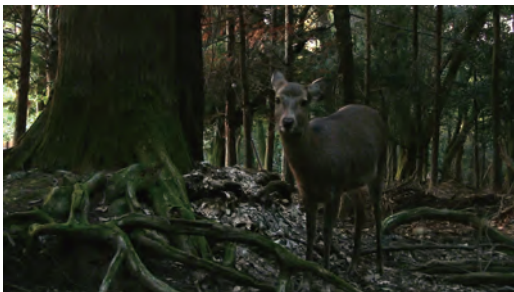
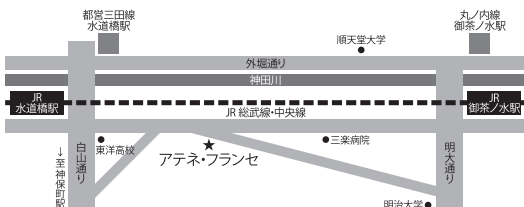
会場 / お問い合わせ

アテネ・フランセ文化センター

東京都千代田区神田駿河台 2-11 アテネ・フランセ 4 階

03-3291-4339 (月曜 13:00-17:00 / 火～土曜 13:00-20:00 / 日曜休館)

infor@athenee.net



キノコヤ

タイムテーブル

① 13:00 - 14:37 7作品+特別上映

② 16:00 - 17:37 7作品+特別上映

17:45 - 19:00 ジャン＝クロード・ルソー監督トーク
(聞き手：宇和川輝さん)

*①と②の上映作品は同じです。

*チケットは予約制ですが、開場は各回 30 分前、先着順の自由席です。

入場料

①入場料（上映・1ドリンク代込み）2,000 円

②入場料（上映+トーク・1ドリンク代込み）2,500 円

10/18 より時間指定の予約をキノコヤ Peatix で開始予定。

<https://peatix.com/group/7815701>

*定員の少ない会場のためキャンセルされる場合は必ずご連絡ください。

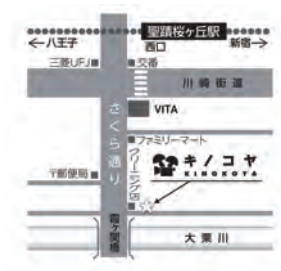
会場 / お問い合わせ

キノコヤ

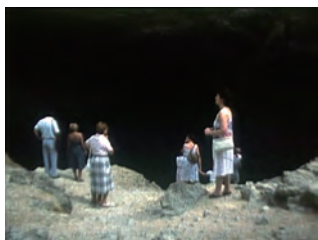
東京都多摩市関戸 4-34-5

042-400-1127 (月・木休み)

kinokoya96@gmail.com



ストロブ＝ユイレが絶賛した孤高の映画監督ジャン＝クロード・ルソーの特集上映を開催。小津映画へのオマージュを宿して日本の風景を捉えた作品や近年の貴重な作品など、その大半が日本初公開となる作品群を上映します。カメラが見つめる画面の中に、微細な光の揺らぎや、世界の息づかいが静かに立ち上がる——。彼の視線がすくい取った世界の儚さと美しさを、スクリーンで味わう特別な機会です。



閉ざされた谷 La Vallée close

1995 年|140 分|DVD 上映|日本語字幕付

ソルグ川の湧出点、ジョルジョーネのタブロー、ペトラルカの詩的フォルム…。それらは響きと反響の環状のシステムに配置され、作品を織りなす要素となる。1999 年ベルフォール映画祭グランプリ 受賞作品。



セリ・ノワール Série Noire

2009 年|19 分

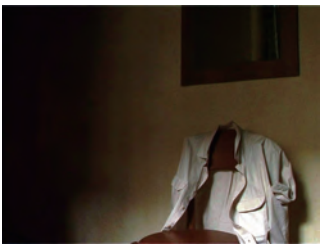
ポルトガルで家のテラスにカメラを据え、一日の光の変化、道行く人々、外界の物音、ラジオの音楽、一人の女性により繰り返される留守電メッセージが提示され、最後に尺八の音色が全体を締めくくる。



晩秋 Arrière-saison

2016 年|24 分

2014 年京都滞在中に撮られた作品の一つで、11 月の色鮮やかな自然の美しい京都御所の空間の中で往来する、カラフルな、時に奇妙な人々の佇まい、振る舞い、仕草を見つめる。



愛の歌 Chansons d'amour

2016 年|19 分|日本語字幕付

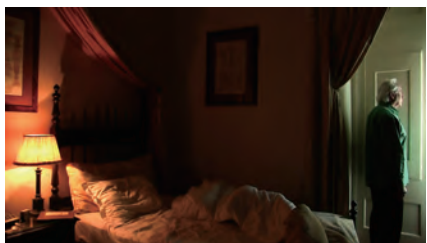
監督自身が演じる男が部屋で座っていると、古い歌が聴こえてくる。鏡、人と扉とカーテンの開閉と黒画面のアクションから浮かび上がってくるノスタルジックなイメージ。



かくも遠く、かくも近く Si loin, si proche

2016 年|26 分|日本語字幕付

2014 年京都滞在中に撮られた作品の一つで、主として嵐山、尾道の風景や人々が登場し、ルソー監督を魅了してやまない小津安二郎映画への思いを日本の風景に重ね合わせる作品となっている。



イン・メモリアム In Memoriam

2019 年|23 分

2015 年、ルソー監督がリスボン滞在中に起こったパリ同時多発テロの暴力性に映像作家として静かに抵抗するイメージを、同年 10 月に逝去したジャンタル・アケルマンの映画の記憶に重ね合わせつつ提示した作品。



浮世 Un monde flottant

2021 年|56 分|日本語字幕付

2016 年に来日したルソー監督が、奈良、尾道、静岡、東京と小津映画のイメージを辿った旅の結実。変わることなく浮世を見つめる鹿の眼差しと、来ては去る人々の不在の痕跡を見つめる作家の眼差しとが交差する。



カフカの墓 Le Tombeau de Kafka

2022 年|14 分

カフカの生地プラハのホテルの一室、窓辺に置かれた机と椅子、幾何学的窓枠の外の赤い屋根、差し込む光に包まれ読書するルソー監督、時折響くピアノの音色、やがて小さな磁器のカップに納められる蜂の死骸。

アテネ・フランセ文化センター

ジャン＝クロード・ルソー レトロスペクティブ

上映作品



対岸の眺め Une vue sur l'autre rive

2005 年|24 分

対岸にアヴィニョンの橋（サン・ベネゼ橋）を望む河岸に固定されたカメラの前を、ローヌ川の流れとともに行き来する人々を捉える。誰かに宛て絵葉書を書くように映画を撮るルソー監督の特徴を示す作品。



ある日 Un jour

2011 年|4 分

みごとな構図で海と浜辺を捉えた3ショット、波の音、鳥の鳴き声、足音、カメラを最適な場所に固定したリュミエールのシネマトグラフとルソー作品の繋がりを再認識させてくれる小品。



霧のヴェネチア Senza Mostra

2011 年|10 分

Senza Mostra「見せることなく」とのタイトルが示すように、霧に沈んだヴェネチアの街は、いつもは南国の光に晒されたその輪郭を明瞭に見せることなく、幻のように海に浮かんでいる。



テラスの眺め Terrasse avec vue

2014 年|18 分

フィレンツェのサンタ・マリア・デル・フィオーレ大聖堂を望むカフェのテラスに来ては去る観光客の姿をカメラは、アルバニア移民のウェイターとの会話を交えながら、固定ショットで捉えてゆく。



別の日 Un autre jour

2014 年|2 分 30 秒

Un jour と対をなす作品。セザンヌの絵画を想起させる厳格な構図の遠景に捉えられた浜辺、波の音、輝く雲、両親のもとへ駆けてゆく少女の足音、光のたゆたい、日常の至福の瞬間を映した作品。



ウェルカム Welcome

2022 年|18 分

ニューヨークに滞在中のルソー監督が、古びたホテルの一室の窓にカメラを据え、光の変化、吹きつける風、対面の集合住宅の窓に影絵のように映し出される人々の営みを固定ショットで捉えた作品。

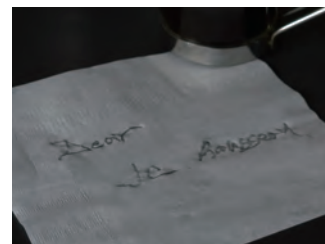


私の恋人たちはどこ？ Où sont tous mes amants?

2023 年|6 分

海辺に近い森、ルソー監督が木々の奥へ歩み去るにつれ弱まり、戻るにつれ強まる口笛の音色、やがて闇に覆われた森にもはや口笛も響かず、もう一度監督が消え去った恋人たちの痕跡を探すかのように往還する。

特別上映



correspondence1

2026 年|14 分|監督：キム・ジェホン

2026 年ソウルでのルソー作品回顧上映で知り合った若い映像作家キム・ジェホンからルソー監督に送られた書簡映画。ブレッソンの『ムシエット』『バルタザール』の映像を散りばめつつ、ルソー作品への思いを語る。

キノコヤ